

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
情報・技術ワーキンググループ（第4回）

意見

亀田 香利

1 情報活用能力の抜本的向上を目指す姿・裾野の拡大について

事務局ご提案の「目指す姿」と、実現するための「裾野を広げる」考え方に、賛同いたします。「AI スケーリング則」を「教育スケーリング則」として考えてみると、

AIが良質のデータや計算量を増やすことで、創発・進展を生み出したことや、あるスポーツ競技が、幼児からお年寄りまで競技できるよう環境整備し競技人口を増やしたことで、世界トップアスリートチームを輩出しているように、「裾野を広げる（スケールさせる）」ことは「目指す姿」を実現させるために欠かせないことと考えます。

この「スケーリング則」を成功させるためには、AIが「質の悪いデータ」を大量に学習しても賢くならないのと同様に、教育においても「質の伴った情報活用能力」を身につけることが大事であると考えます。これは、今まさに、審議中の「情報の領域」（仮称）「情報・技術科」（仮称）「情報科」で議論されていることと捉えております。裾野を広げる上で、重要と考えられるのは、次の5点です。

- ① 端末活用の自治体・学校間差の底上げ
- ② カリキュラムの質の担保
- ③ 教員の情報活用能力の底上げ
- ④ 都道府県・市町村教育委員会（ガバナンス層）の理解と情報活用能力の向上
- ⑤ 保護者・地域住民の理解

加えて、高校入試や各評価制度に情報活用能力とCBTが導入されると、①から⑤も、より加速するのではと考えます。（全国学力学習状況調査のCBT化に加えて）

2 令和の時代における「豊かな生活」の再定義

資料2のP10、P25の「豊かな生活」という言葉について、違和感があるようなご意見があがっていましたが、家庭WG委員も拝命している者として、意見を申し上げます。

この言葉は、昭和の高度経済成長期における「豊かさ」ではなく、その内包する意味を広げ、令和の時代の新しい価値観である「経済合理性だけではない、質的な充足」を表現していると考えます。令和の「豊かな生活」とは、「経済的な安定を基盤に、AI等のテクノロジーを有効活用し、自由な時間と選択肢の中で、精神的・社会的な充足を追求できる生活」と再定義してみると、事務局ご提案の「豊かな生活」は、包括的で適切な言葉だと考えます。このまま表記を残していただけたらと思います。